

平成23年度  
我が国におけるデジタルアーカイブの構築・連携に関する調査研究  
オープンなメタデータ情報基盤の構築に関する調査・実証

# 実証実験設計書

---

平成23年 8月 24日

# 目次

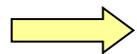
---

- 背景
- 目的
- 都道府県立図書館中央集約モデル 概念図
- 実施の方針
- 実施の流れ
- 作業分担及び実施日程
  
- 参考資料: 実施内容詳細
- 参考資料: メタデータ情報基盤とは

# 背景

---

- ・ 多くのデジタルアーカイブが作られている
  - 図書・出版物、公文書、美術品・博物品・歴史資料等公共的な知的資産をデジタル化し、インターネット上で電子情報として共有・利用できる仕組み
- ・ デジタルアーカイブの利点
  - 地理的制約を超えて利用することが可能
  - 検索性が高まる
- ・ デジタルアーカイブの問題点
  - サイトの存在が知られていないため、利用されない
  - 検索できないため、利用されない
    - ・ 検索エンジンでヒットしづらい
    - ・ 多数のデジタルアーカイブに対し、何度も検索を行うのは面倒
  - 構築の状況に偏りがある(構築ができていない機関の方が多い)
    - ・ 構築がされていない機関では、資料のメタデータを整備しているが公開していなかったり、体系的にも整備できていないのが現状



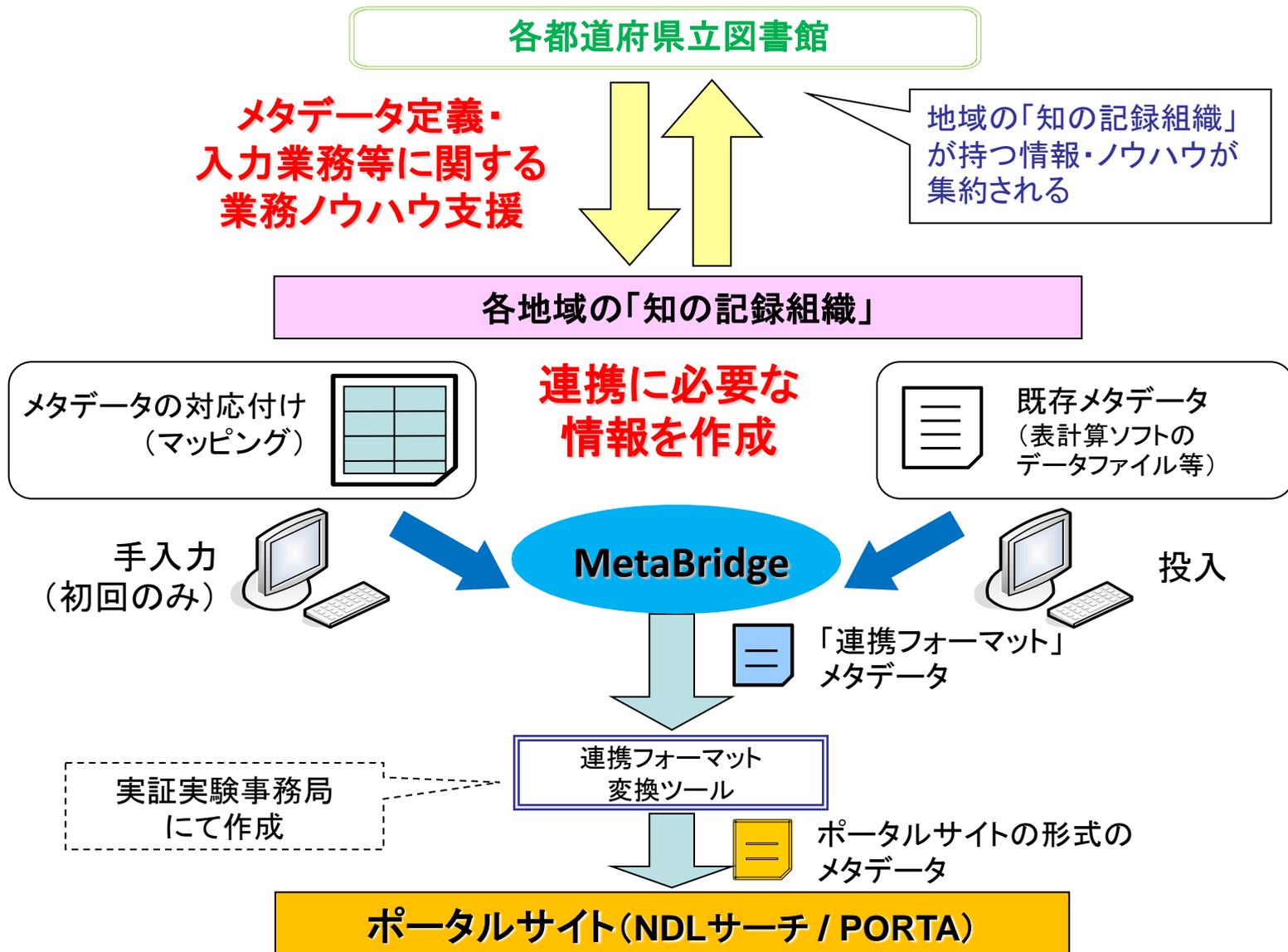
利用しやすい、意義のあるデジタルアーカイブの構築を行うためには、デジタルアーカイブ同士の連携が必要

# 目的

---

- ・ デジタルアーカイブの構築・連携の普及
  - ✓ 博物館・美術館、図書館、文書館の持つ資源をデジタルアーカイブにて公開し、相互に連携し、利便性を高める。
- ・ 地域に根差した活動 ―都道府県立図書館中間集約モデル
  - ✓ デジタルアーカイブの構築・連携を各館が単独で行うことは困難。都道府県単位で取りまとめを行う館を設け、その館が各館との連携および国や他都道府県との連携を助ける。
  - ✓ これにより、適正な運用規模を確保しつつ、より多くの館に参加していただくことができ、連携の効果が高まる。
- ・ 「メタデータ情報基盤」システムの活用
  - ✓ 各館で異なるメタデータ(目録・書誌情報)の項目は無理に統一せず、意味の対応付けを行うことで、連携を可能とする。
- ・ 参加いただく機関へのメリット
  - ✓ 県内他館のノウハウを活用しながら、自館のメタデータを整理・蓄積できる。
  - ✓ 眠っている地域の文化財資源の整理を行うことができる。
  - ✓ 現在未整備あるいは着手できない機関への参加を呼び掛けることができる。

# 都道府県立図書館中央集約モデル 概念図



# 実施の方針

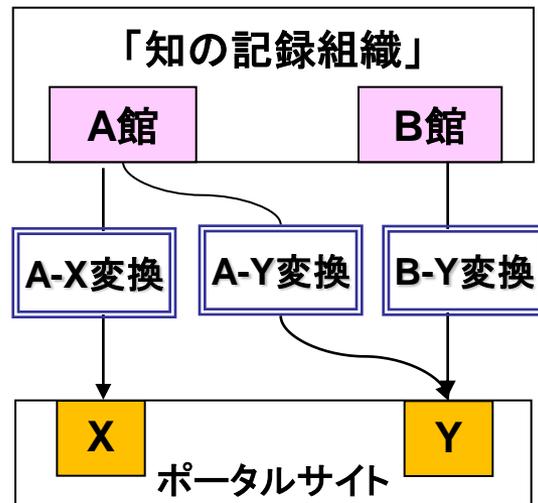
---

- ・ 前年度の報告において、できるだけ多くの機関が知的資産を公開できる仕組みとして「都道府県立図書館中間集約モデル」を提案した。
- ・ 本年度は「都道府県立図書館中間集約モデル」の概念を踏まえ、実際の小規模な機関に適用し実証実験を行う。
- ・ 新たに大きなシステム投資をせず、既存の仕組み（MetaBridge。詳細は次ページ参照）を極力使用して行う。
- ・ プロセスを重視した人間系の手続きや作業を中心に実証実験を行い、運用していく上での課題の洗い出しとノウハウの収集を行う。

# MetaBridgeとは

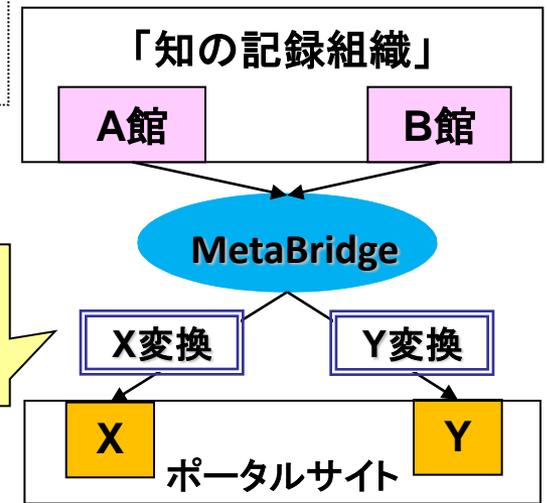
- 平成22年度 総務省「新ICT利活用サービス創出支援事業」にて構築されたシステム。  
メタデータスキーマ(目録の項目)の定義・意味づけや、他のメタデータスキーマへのマッピングを入力し管理することができる。
- 本実験においてMetaBridgeは、実験参加館独自のメタデータスキーマで記述されたメタデータを、連携用の中間フォーマットに変換する役割を担う。

MetaBridgeがない場合



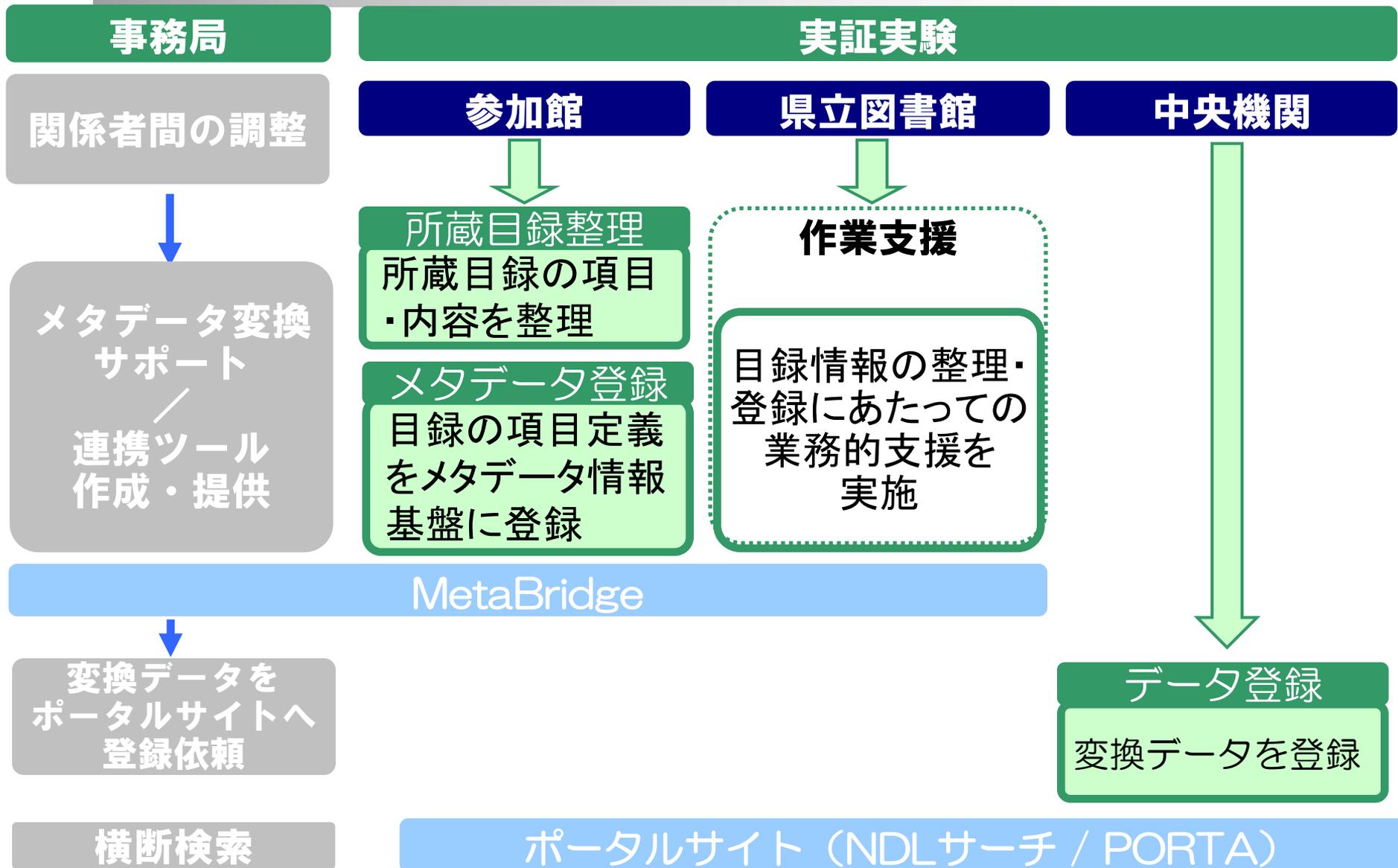
個々の変換が必要

MetaBridge使用時

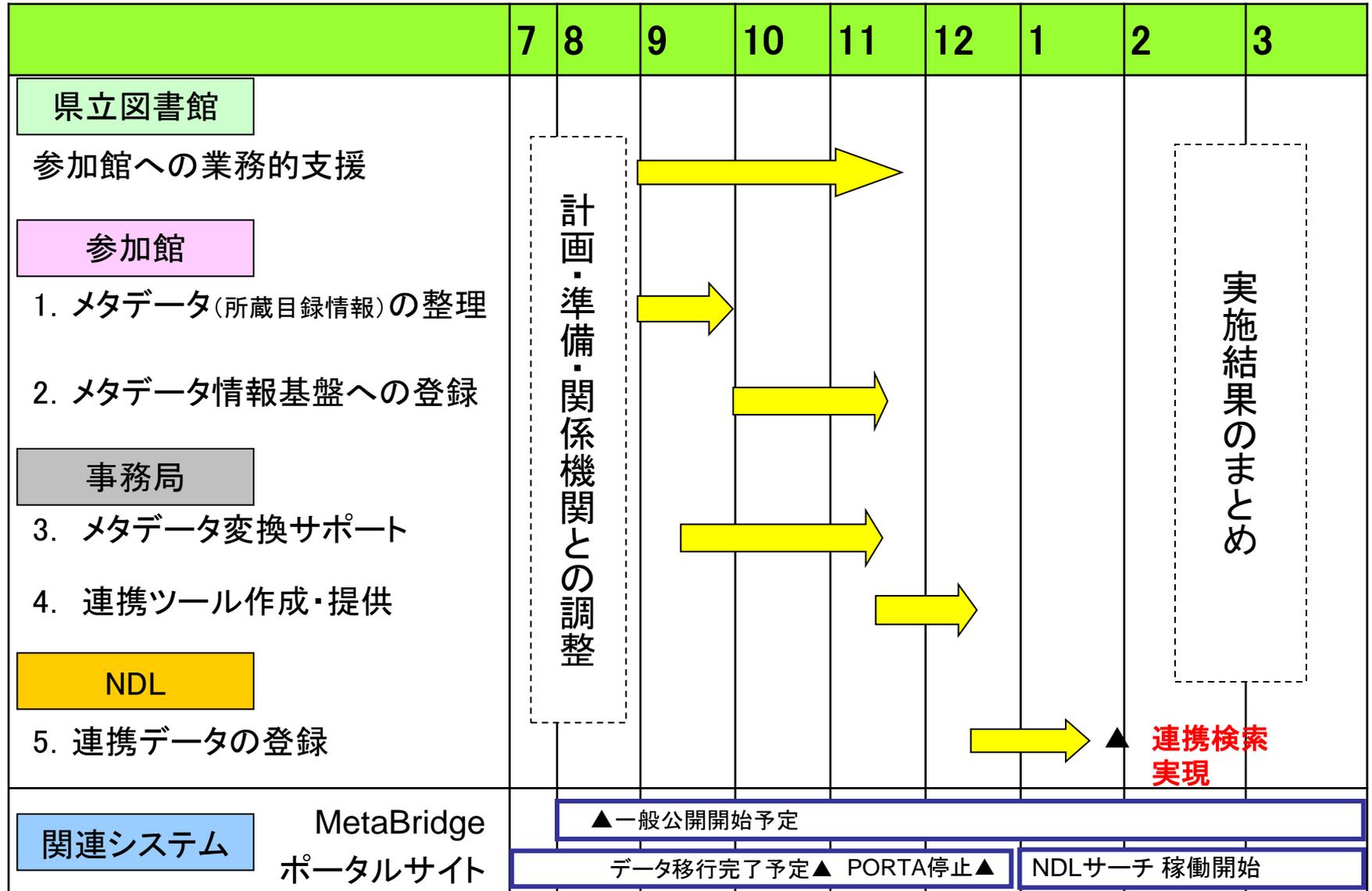


中間フォーマットからの変換だけでよい

# 実施の流れ



# 作業分担及び日程



---

# 參考資料

# 実施内容詳細

---

## 1. メタデータ(所蔵目録情報)の整理

参加館

Excel等で作成されている、あるいは何らかのシステム上で管理している所蔵目録の項目・内容を整理し、次段階への準備を行う。メタデータについての疑問や、判断に迷うところがあれば、県立図書館と連携して確認する。

### 【質問例】

- ・目録項目に何を持たせたらよいか
- ・どういった記述をしたらよいか

※ここで準備したメタデータが、2.以降で連携されて公開されるものとなる。

# 実施内容詳細

---

## 2. メタデータ情報基盤への登録

参加館

目録の項目定義を、メタデータ情報基盤「MetaBridge」に入力する。

- ・メタデータ情報基盤「MetaBridge」の操作にあたっては、事務局より技術支援を行う。
- ・登録内容についての業務的な疑問・不明点がある場合は、県立図書館に問い合わせを行う。
- ・問い合わせの内容は県立図書館で記録し、他の参加館からの類似問い合わせ、及び今後のノウハウ展開に備える。また、本実証実験の分析資料としても用いる。

# 実施内容詳細

---

## 3. メタデータ変換のサポート

事務局

メタデータ情報基盤「MetaBridge」の操作にあたっての技術支援、メタデータ情報基盤運営主体との連携、システム面での問題対応等を行い、後工程にて「連携フォーマット」への変換が円滑に実行できるよう支援する。

## 4. 連携ツール作成・提供

事務局

「MetaBridge」を介して出力された、「連携フォーマット」による参加館のメタデータ情報を、中央機関のポータルサイトに登録できるようにするツール(システム)を作成し、提供する。

# 実施内容詳細

---

## 5. 連携データの登録

中央機関

連携ツールによって変換された参加館のメタデータを、中央機関のデータベースへ登録する。

登録完了後、データを実際に検索・閲覧し、正しく連携されたことを確認する。

# 実施内容詳細

---

## ※連携先機関について

NDL PORTAからNDLサーチへの移行(平成24年1月)が控えており、データの登録制限が発生する可能性がある。

以下のいずれかの方式で行うことになるため、関係者へのスケジュール調整、状況の確認を行い判断を行う。

- ・PORTAに登録を行う
  - …NDLサーチには移行されない、12月サービス終了
- ・NDLサーチに登録を行う
  - …本格稼働開始時期の前後でデータ投入を行う必要がある
- ・PORTA, NDLサーチ相当の疑似システムを作成し登録を行う

⇒ 現在関係者間での調整を実施中

※PORTAあるいはNDLサーチの機能を検証することが本実証実験の目的ではないため、いずれの方式でも支障はない。

# 「メタデータ情報基盤」とは

